

## 5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

	令和6年度高岡南高校アクションプラン - 1 -
重点項目	学習活動と進路支援
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の授業を通じて学力を伸長することを学校全体で共有し、生徒の進路志望と実態に即した学習活動となるよう工夫する。</li> <li>・面接週間を中心に、こまめに生徒との面接を行い、生徒の主体的な学びと自己実現を支援する。</li> <li>・令和7年度新課程入試についての情報収集と分析に努める。</li> </ul>
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の生徒ほとんどが大学進学を志望している。中学までは与えられた課題にまじめに取り組むことで好成績をあげてきた生徒が多いが、自らの進路について明確な目標を持っている生徒は多くない。</li> <li>・今後の進路選択に際しては、生徒自身が主体的に自らの将来を見据えて、自己の適性・能力をしっかり認識し、必要な事柄を選び取れる主体的な姿勢を育成しつつ、入試に対応できる学力を身につけていくことが必要である。</li> </ul>
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 進路意識向上のための面接指導を、各学年概ね6回以上実施する。</li> <li>(2) 平日の家庭学習習慣を確立する。平日は1年生2時間、2年生3時間、3年生の6月以降4時間、休日は1年生5時間、2年生6時間、3年生は6月以降8時間を確保できるよう支援する。</li> </ol>
方 策	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学期初めの面接週間に加え、定期考査や実力テスト、外部模試の成績を渡すタイミングなどに個人面談を行う。必要に応じて担任だけでなく、教科担当者なども含め面談を行っていく。</li> <li>(2) 授業の予習・復習・週ごとの課題を中心とした学習習慣の確立を目指す。課題は、習熟度に応じた個別的な取り組みができるよう配慮しつつ、学年と教科が連携を図り、分量とレベルを設定する。</li> <li>(3) 各学期末にアンケートを行い、達成度を検証する。</li> </ol>

令和6年度高岡南高校アクションプラン - 2 -	
重点項目	学校生活
重点課題	(1) 自己教育力を高め、自主自律の精神に満ちた品格ある集団の育成 (2) 生活のリズムを整える食習慣の定着。
現 状	(1) 規律ある行動として「挨拶の励行」「時間厳守」「身だしなみ」「公共の場でのマナー遵守」「スマートフォンの適切な利活用」を挙げている。今年度は特に、社会的なルール・マナーの意識の向上とマナー遵守の実践に主眼を置きたい。 (2) 健康的で活発な学校生活を送るためにも、基本的な生活習慣を確立する必要がある。そのためには朝食摂取の習慣の確立に向けて、改善すべき余地がある。
達成目標	(1) 社会的なルール・マナーを守り実践する。 90%以上 (2) 朝食を毎日とる習慣が身についている。 90%以上
方 策	(1) ①生徒校紀委員会を中心に各クラスの「行動指針」策定し実践する。 ②「社会的なルール・マナー」についてアンケートを実施し、理解度を高め、実践していく生徒を増やしていく方策については、生徒間で策定したルールを守る形とし生徒の自主性を尊重する。 (3) 朝食を始めとした生活習慣の実態を把握し、朝食の重要性を機会を捉えて啓蒙するとともに、食習慣をはじめとして生活習慣を考えさせる機会を設ける。

( )評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

令和6年度高岡南高校アクションプラン - 3 -

重点項目	学校の活性化
重点課題	(1) 行事・部活動を通じて自ら創意工夫に努め、主体的に行動できる生徒の育成 (2) 読書活動の推進 (3) ホームルーム活動などを通じてのボランティア活動の推進
現 状	(1) 学校生活を意義あるものにするために、生徒一人ひとりのアイデアと主体的な姿勢が一層求められている。 (2) 図書の貸出冊数は増加傾向にある。(生徒一人 R3 2.6 冊、R4 3.8 冊、R5 5.3 冊) (3) 奉仕の精神に富む生徒が多く、ボランティア活動には意欲的である。
達成目標	(1) 学校生活アンケートにおいて、学校生活に満足と答えた生徒の割合が80%以上。 (2) 図書の総貸出数が年間1900冊(生徒一人あたり4冊)以上を目指す。 (3) 生徒一人ひとりがボランティア活動に年間一回以上参加する。
方 策	(1) 生徒一人ひとりに対し、高校生活が創造力と主体性を発揮する絶好の機会であると捉えさせる。各行事ごとに振り返りの機会をもつように努め、併せて様々な場面で声かけと側面からサポートを心掛ける。 (2) ①学年と連携し、朝読書の時間を充実させる。(朝読書用の書籍を図書館から継続して選んでもらう。朝読書に好適な書物の充実を図る。) ②授業や探究活動における図書館書籍の活用が推進されるよう支援する。 ③趣向を凝らしたPOPの作成や新着図書案内、校内掲示板の活用など広報活動に努める。 (3) ホームルーム活動等を利用し、各学年・クラス単位で校舎内外・戸出地区における清掃作業等のボランティア活動の企画・実施を推奨する。

( ) 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

令和6年度高岡南高校アクションプラン - 4 -

	令和6年度高岡南高校アクションプラン - 4 -
重点項目	SOUTH探究プロジェクト
重点課題	「SOUTH探究プロジェクト」の充実発展を目指す。スクールポリシー「SOUTH」を実現するために、地域企業・自治体・大学・PTA等と連携し探究活動を行い、情報発信力や課題解決能力を育成することを目指す。また、探究的な活動を通して、将来の社会とのかかわり方の視野を広げ、生徒のキャリア教育に資する。
現 状	「SOUTH探究プロジェクト」では、探究的な活動を行い、1学年では企業・行政と連携し地域課題をテーマに探究の手法を学ばせている。2学年での大学連携により探究力・自己発信力の伸長が期待されている。学びに向かう姿勢や高みを目指して挑戦する姿勢を高めるためにも、このプロジェクトを系統的に再編・組織化し、伸ばしたい力を計画的に育成する必要がある。
達成目標	「SOUTH探究プロジェクト」を通じて、探究力・自己発信力が育成された生徒の割合 80%以上
方 策	<p>「総合的な探究の時間」「理数探究」「HR」を活用して実施する。</p> <p>①1学年 課題の設定や情報活用能力など探究リテラシーを身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イノベータープログラム（アントレプレナーシップ講座・グローバル講座）を実施しデザイン思考を学び、マインドセットを行う。</li> <li>・企業訪問「フィールド・スタディ」「インターンシップ」を実施する。デザイン思考を実践し、課題発見・課題解決方法について地域企業をテーマにして学ぶ。</li> <li>・地域探究・・・高岡市と連携し、身近な地域を課題にして探究し「課題設定力」「ロジカルシンキング」を学ぶ。また将来の社会とのかかわり方へと視野を広げる。</li> </ul> <p>②2学年 1年間を通して学術型探究活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学連携講座Ⅱ（探究的な活動Ⅱ）・・・富山大学と連携し、将来進む可能性のある学問分野に関係した研究活動等を体験する。仲間と協働しながら、課題を発見し解決していくための資質・能力を育成し、探究力・自己発信力を身につけさせる。理系に於いては更に数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせる。</li> </ul> <p>③3学年 データサイエンス講座により、探究力を高める。</p> <p>④海外研修・大学実習（希望者研修）イノベータープログラムを実践する場としてアメリカ研修・大学実習（大阪大学他）を実施予定である。</p> <p>⑤プロジェクトの評価と改善を行い、伸ばしたい力について学校全体で共有をはかる。</p>

( )評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

	令和6年度高岡南高校アクションプラン - 5 -
重点項目	人文科学コースの活動推進
重点課題	<p>(1) 授業内容を学校全体で共有し、教科間や外部教育機関との連携をとりながら、効果のある学習活動となるよう内容を充実していく。</p> <p>(2) 体験学習を中心に専門的で特色のある学習や活動を取り入れ、国内だけでなく世界において、リーダーとして活躍できる総合的な能力を身に付けさせる。</p>
現 状	<p>(1) 授業と校外校内学習を連動して深め、生徒の能力を伸ばせるよう日程や内容を計画・工夫している。</p> <p>(2) 授業「文化と情報」担当者が内容を計画し実施しているが、その内容が校内ではあまり周知されていない。</p>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人文科学コースの授業「文化と情報」で表現することへの関心・意欲とコミュニケーション力が高まった、と感じる生徒の割合が80%以上。</li> <li>・校内での授業やセミナーの参観者 のべ30人以上。</li> </ul>
方 策	<p>(1) 授業「文化と情報」(2, 3学年)</p> <p>&lt;2学年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校外学習や校内学習での学びを参考に、自身の研究テーマを設定し、調べた内容を日本語や英語で表現する。また、その成果の発表を効果的に行うために、様々な技法やICT機器を利用する。</li> </ul> <p>&lt;3学年&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学びを総合的に駆使し、自身の課題を発見し、データ分析をしながら解決策を導き出す。それをまとめて最終的には英語でプレゼンテーションする。そのため本校卒業生が協働活動支援員として生徒をサポートする。また、その成果の発表を効果的に行うために様々な技法やICT機器を利用する。</li> </ul> <p>(2) 校外校内学習「セミナー」(1, 2学年)</p> <p>①サマーセミナー、スプリングセミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育機関や博物館などの施設で専門的な体験学習を行い、人文科学系の世界に触れ、興味のある分野の知識を深める。</li> <li>・人文・社会・国際系で活躍している人の経験談や専門的な話を聴き、ワークショップを通して、国際・社会についての視野を広める。</li> <li>・探究活動やプレゼンテーションについて学ぶ。</li> </ul> <p>②ウインターセミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人留学生との意見交換や交流を通して情報発信力、プレゼンテーション能力を高める。また、規律ある態度、責任感、連帯感を培う。</li> </ul>

( ) 評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状維持 D: 現状より悪くなった